

令和5年度 事業報告

1. 堺あすなろ会
2. ピュアあすなろ
3. 堺あすなろ園
4. あすなろ万崎の郷
(万崎の郷・もみの木)
5. アトリエhana
(アトリエhana・ゆめ工房・Link みいけ)
6. グループホーム事業
7. フィットウェル
8. わかば
9. 陽だまり
10. 障害児通所支援事業
(Link みいけ・Link にわしろ・Link ふかい)



社会福祉法人 堺あすなろ会

令和5年度 堺あすなろ会 事業報告

【企画研修部】

1. 研修

① 法人研修を計画、実施

令和5年度は、コロナウイルス感染状況も落ち着いたため、集合研修を行った。

日 時：令和5年11月3日（祝・金）9時30分～11時30分

場 所：梅文化会館 第一講座室

講 師：稲垣亮祐先生（さわらび診療所 精神科医）

テーマ：「強度行動障害を持つ利用者への支援」 ※講演後、グループワークも行った。

当日出席65名 後日録画視聴者22名 計87名

⇒ 令和6年度も、この内容を深めるために稲垣先生による集合研修を実施予定。

② 新人研修の実施

令和5年度も新入職員が新卒ではなく中途入職者であり、入職の時期がばらばらだったので勤務の合間を縫って個別に新人研修を実施した。

③ 動画研修の終了

令和5年7月をもって動画研修は終了した。仕事の合間に視聴するというスタイルで、まとまった内容の研修を実施するのは無理があることが判明したため。今後、階層別研修をどのようなスタイルで行うかが課題となっている。

2. 広報

「あすなろ新聞」 4月 6月 8月 10月 12月 1月 3月号を編集・発行

3. デイキャンプ

令和5年度は見送った。コロナウイルス感染が終息に向かい、各事業所での外出行事も復活している。今後再開する場合は、法人として取り組む意義をはっきりさせ、運営体制を整える必要がある。

4. 堺・ストックホルム障がい者作品交流展示会の中止/国際交流の継続

令和5年度は、堺市の障がい者施設（堺あすなろ会を含む）のアート作品を、ドイツ、ビーレフェルト市のベーター総合福祉施設で開催された「国際交流展示会」に送り、これをもって国際交流とした。堺あすなろ会に限らず、市内のどこの障がい者施設も職員確保に苦勞しており、現場が厳しい状況で、大規模な展示会を開催するのは無理があると判断したため。

5. 採用活動

人材紹介会社や、広告会社、派遣職員から正規職員への転換などによって、中途採用を行った。堺市障害児者施設部会の採用チームイベントの運営に協力し、市内の大学生と若手職員との交流を行った。ピュアあすなろでは、海外人材を雇用する取り組みを進めた。（令和6年8月、インドネシアから2名の男性職員が入職予定。）

6. メンタルヘルス

令和5年11月、12月、全職員を対象に、ストレスチェックを行った。

7. ハラスメント対策

法人内のハラスメント対応窓口を通して、いくつかの案件に対応した。

8. オール大阪の社会福祉法人による社会貢献事業

関係機関との連携を十分に行いながら、地域の援護を必要とする方への相談活動及び経済的援助を行う事業を行っているが、令和5年度は対象者はいなかった。

【車両管理部】

1. 車両管理

○ 車両維持費

燃料費・任意保険料・車検代・点検修理代・リース料

令和 5 年度	11,689,656 円
令和 4 年度	10,660,468 円
令和 3 年度	10,660,829 円

○ 車両使用状況

年間の走行距離や使用年数等で車両の状態を把握する。

○ 登録抹消車両

軽自動車 堺 580 か 341 令和 5 年 9 月 20 日 完了
(経年劣化によるエンジン破損のため)

○ 車両購入について

新車購入報告

- ・ 2023 年 一般財団法人全国福利厚生共済会 福祉車両寄贈
令和 5 年 9 月 5 日 納車
日産クリッパーリオ車いす仕様 軽自動車
事業費総額 2,383,790 円 (諸費用込み) 自己負担 0 円

○ 堺市送迎バス等安全装置導入支援事業補助金交付申請

対象車両：放課後等デイサービス送迎車 6 台
事業費総額 739,860 円
令和 6 年 1 月 30 日 交付決定 補助金額 739,860 円

2. 送迎業務

○ 送迎担当者会議 (2ヶ月に1回)

- ① 送迎に関する課題 (停留所やコース、到着時間等) の検討
- ② 各事業所による情報交換
- ③ 事故・トラブル・苦情等の報告
- ④ 各事業所への配車の調整
- ⑤ 車両の管理状況の報告 (車検時期や簡単な点検)

○ 送迎ドライバーとの連携と情報交換

- ① ドライバーの健康状態の把握
- ② 業務内容の確認

○ 法人車両の事故・トラブル・苦情等発生状況

発生件数 23 件 (前年度件数 23 件)

内 容	件数	状 況
人身事故	0 (0)	
車対車	0 (3)	
自損・物損	20 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・ バックした際、後方の壁や柱等に接触する 7 ・ GH に駐車した際、屋根や軒に接触する 3 ・ 工事現場の横を通り抜ける際、重機や資材と接触する 2 ・ 事業所内に左折で侵入する際、後輪付近を門柱に接触させる 3 ・ 事業所内で方向転換する際、右前部を縁石等に接触させる 2 ・ 対向車とすれ違う際、左に寄りすぎ道路標識等と接触する 2 ・ 駐車場で利用者の開けたドアが、隣の車両に当たる 1

内 容	件数	状 況
トラブル	2 (0)	・溝蓋を通過した際、溝蓋が跳ね上がりマフラーに刺さる ・ブレーキオイルが漏れて、ブレーキが効かなくなる
交通違反	0 (0)	
苦情	1 (3)	・利用者を送迎中の車両がスピードを出しすぎではないかと電話連絡がある

○ 安全運転講習

令和5年11月から令和6年1月の期間において、各事業所にて安全運転の啓発（交通事故防止のための講話と交通安全 DVD 鑑賞 等）を行った。

- ・堺あすなろ園
- ・ピュアあすなろ
- ・児童部
- ・アトリエ hana グループ
- ・あすなろ万崎の郷
- ・もみの木
- ・地域支援部

○アルコールチェック実施

運転業務前と業務後に、運転者の状態を目視等で確認し、酒気帯びの有無を確認する。結果をアルコールチェック表へ記入し、1年間保存する。

なお、令和5年12月1日より、堺あすなろ園及びピュアあすなろはアルコール検知器を用いてのチェックが義務化になる。

○災害発生時及び非常事態時の緊急帰宅マニュアルの作成

○ 送迎時の新型コロナウイルス感染予防対策

- ① 乗車時及び乗車中の健康観察
- ② 乗車時の手へのアルコール消毒
- ③ 窓を開けたり、外気循環モードによる空気の入れ替え
- ④ 車内での私語を出来るだけ控える
- ⑤ 送迎終了後、アルコールによる車内消毒

事業の総括

令和5年度も安全・安心・快適を第一に車両運行及び送迎業務に取り組んだ。

送迎業務については、幼児の車内置き去り事故が社会問題化し、放課後等デイサービスでの送迎車に置き去り防止安全装置の導入が義務付けられた。補助金交付対象事業であったが、成人事業所の送迎車が補助金の対象にならなかったのは残念に思う。

車両維持費はここ数年ほぼ横ばい傾向であったが、令和5年度は増加に至ってしまった。

燃料費の高騰が依然続いているが、それ以外に車両の不具合が数件発生し、高額な修理費が必要になったのには頭を悩ませた。年式の古い車両だけではなく、6年目という丁度保障の切れた時期であったため実費になってしまったという例もある。

車両の事故・トラブルでは今年も重大な交通事故は無かったが、自損・物損事故が20件発生したということは大きな反省点である。

自動車保険の掛け金も増加になっているのも、保険での補償をかなり利用したことを物語っている。

ちょっとした気の緩みが大きな事故を招きかねないので、今後も気を引き締めて安全運転に徹するよう働きかけていきたい。

令和5年度 ピュアあすなろ 事業報告

利用者数 (令和6年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	定員に対する稼働率
施設入所支援	50	50	49.7	99.4%
生活介護	40	50	48.8	97.6%

短期入所

<今年度利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実利用者数	48	46	41	47	44	40	43	43	47	41	46	46	70
延利用者数	101	95	98	95	87	90	91	104	102	88	105	105	1161
延利用日数	411	407	370	335	301	339	326	347	341	314	347	364	4202

<<事業の総括>>

入所者の健康課題（身体機能の低下・認知機能の低下）が目立っていて、支援を必要とする度合いが高くなっている。その為にも支援スタッフが足りない。しかしながら、支援スタッフの求人を出すのが応募が来ない状況にある。魅力ある職場作りや外国人労働者の雇用について検討が必要と感じ、働きやすい環境づくりを行い、様々な求人方法に取り組み採用に繋げたりした。

令和5年も新型コロナウイルスでのクラスターが発生したが、本館とショート棟を分けていたことでショート棟にまで影響が及ばなかったことから、短期入所事業運営に大きな影響は出なかった。

支援の内容

<活動支援>

(1) 日中活動（生産活動）

午前（月・木・金）午後（月～土）の時間で活動している。できるだけ個別のニーズに沿った支援ができるよう、4つのグループ分けを行い、軽作業・健康維持向上・自立課題制作などに取り組んだ。

収入	支出	収支差額	利用者1人当たりの平均工賃/月
183,402円	163,912円	19,490円	273円

(2) スポーツ及びクラブ活動

- ・リズム体操・・・月2回、多目的室で時間や人数を調整し実施した。
- ・調理クラブ・・・フルーチェ・パフェ・フルーツサンド
- ・レクリエーション・・・体操、塗り絵、缶当て、風船バレー等を行った。

<全体行事>

(1) 年間行事

7月七夕バーベキュー 8月納涼祭 11月花火大会
12月クリスマス会 1月新年会 3月ひな祭り

(2) 余暇活動

- ・季節余暇 10月ハロウィン 2月節分 4月花見
- ・グループ外出・外食 外出先 買い物（アリオ）・ソフィア堺・防災センター・カラオケ
外食先 マクドナルド・ラーメン屋・サイゼリヤ・コメダ珈琲
- ・ティータイム・ドライブ

<生活支援>

(1) 環境整備

日常掃除の実施。スチームクリーナーを活用した床掃除。大掃除を年2回実施・定時トイレ掃除の実施・洗濯機の槽洗浄の実施。物品管理・リパルスの散布を1日2回実施・

衣替えを年 2 回実施・居室内タンス内の整理整頓の実施・布団の入れ替え 2 回・節電に関する啓発・ゴミの削減に努めた。コロナウイルス対策として、消毒の強化を行った。

<その他>

- (1) 防災 ①防災訓練 (消防署立会) 新型コロナウイルスの影響で、消防署の立会は中止となる。
(火災避難訓練 自主訓練) 6月7日・8月8日・11月7日
(夜間地震・火災避難訓練 自主訓練) 2月14日
- ②防災設備点検 4月・10月
- ③非常食 1週間分を備蓄
- (2) 自治会
月1回のミーティング実施。写真・カレンダー販売・おやつ作り・慰労会を実施。
- (3) ピュアだより発行 (1か月に1回) ブログ更新 (不定期)
- (4) ヒヤリハット
各支援者が遭遇し問題と感じた事柄をヒヤリハット項目で記入する。その内容を会議で、検討し改善するようにし、2ヶ月後に振り返り報告を行った。
- (5) 研修
 - ・ 法人研修 「強度行動障害を理解する」
 - ・ ケース会議を行い、利用者の状況の把握と支援の方法を検討する。
 - ・ 交通安全講習会、新型コロナウイルス感染症対応、防護服の着脱の仕方、災害時の体制 AED の使用動画、職員の研修発表、虐待防止研修
 - ・ 外部研修内容を会議などで全職員へ伝達。
 - ・ 資格取得の推奨
 - ・ 職員による研究発表
 - (4月) 津久井やまゆり園事件について
 - (5月) コミュニケーション不足が職場に与える影響
 - (6月) 災害関連死について (7月) 怒りとアンガーマネジメントについて
 - (8月) 大人の発達障害について (10月) 糖尿病について
 - (11月) 生活習慣病について (1月) 子どもの発達障害について
 - (2月) コロナ時代を生きる (3月) 虐待と差別について

給食

<目的>

各個人の嗜好や量に気をつけ、季節感あふれる楽しい給食にする事を心掛けている。また、肥満傾向にある利用者が多い為、献立には野菜を多く取り入れ、油物を減らすなど、肥満改善のための給食を心掛けている。

<給食の状況・内容>

普通食ではあるが、食事に配慮が必要な人に対しては、その状況に応じて提供できるように努めている。内容としては、咀嚼能力の低い人などに対して、主食であるご飯をお粥にし、おかずや汁物の具・麺類等を細かく刻んで食べやすくしている。(一口大・荒刻み・小刻み・ミキサー食)食事の量に関しては看護師・現場職員と話し合ったうえで決め、盛り付けの際に各個人に応じて調節している。

また、体調不良者に対してはその症状に応じてお粥食を実施するなど対応してきた。食物アレルギーのある利用者については、細心の注意を払い、アレルギーの元になる食品の除去や、代替食を実施した。そして、適温給食の実施にも取り組み、温かいものはより温かく、冷たいものはより冷たく提供できるように直前調理に努めている。

<アンケート調査について>

給食献立の内容について、利用者に簡単なアンケート調査を行った。

アンケート結果をまとめて掲示した。

<衛生管理・食中毒の予防について>

厨房内は常に衛生的且つ安全な状態を保つ為に、清掃・整理を徹底した。

<平均給与栄養量>

エネルギー	1862kcal	ビタミンA	803 μg
たんぱく質	82.3g	ビタミンC	131 mg
脂質	54.8g	カルシウム	652 mg
塩分	8.5g	食物繊維	19.6g

医 務

<月別事業>

- 4月11日 風疹ワクチン接種実施（対象者1名）
- 4月28日～5月2日 春の健康診断の尿検査実施
- 5月29日 春の健康診断実施
利用者：血液検査・身長・体重・血圧・胸部レントゲン・心電図(女性のみ)
職員：血液検査・身長・体重・血圧・胸部レントゲン・腹囲・聴力検査・心電図
- 6月14日 しばもとクリニックの血液検査（15名）
- 7月8日 コロナワクチン接種5～6回目（希望者18名）耳原鳳クリニック
- 10月18日 飯田クリニック往診で巻き爪・魚の目切除（1名）
感染症対応物品の確認・補充
- 10月30日 秋の健康診断実施 利用者（血液検査・身長・体重・血圧）
職員（血液検査・身長・体重・血圧）
- 11月6日 コロナワクチン接種5～6回目（希望者13名）耳原鳳クリニック
- 12月1日 坂田歯科定期受診（2名）
- 12月11日 インフルエンザワクチン接種（52名 {入所者49名・ショート利用者3名}

<定期往診・通院>

- ・しばもとクリニック毎月1～2回往診
- ・ひとねクリニック毎月1回往診
- ・飯田クリニック第3金曜日通院
- ・ますもと歯科往診 毎週火・土曜日
- ・坂田歯科往診 毎週水・金曜日

<感染症>

感染性胃腸炎：利用者1名、職員1名 インフルエンザ：利用者0名、職員3名
 コロナウイルス：利用者50名、職員37名

<感染症対策>

- ・コロナワクチン接種は、耳原鳳クリニックに依頼し実施。希望者接種。
- ・大阪府より抗原検査継続。職員に対して、3日に1回のペースで定期的実施。3月末で終了
- ・季節性インフルエンザワクチンは、利用者50名接種実施。職員は個人判断で任意接種。
- ・各フロアに設置している感染症の嘔吐物処理セットの確認・補充。

<今年度の振り返りと今後の課題>

- ・新型コロナワクチン接種・インフルエンザワクチン接種の委託医療機関は、しばもとクリニックから耳原鳳クリニックとなる。ワクチン接種は、7月と11月に希望利用者のみ実施する。
- ・2024年2月17日～3月4日（3回目）に新型コロナウイルスのクラスターが見られた。発症者の症状は一時的な発熱や風邪症状などで改善に向かっていった。
- ・訪問リハビリ（アール訪問介護ステーション）を2023年2月から開始し、約1年が経過する。外反母趾による靴擦れや疼痛、歩き方に問題のある方がみられたため、理学療法士の歩行指導と、飯田クリニックのドクターにも相談し、外反母趾に対して進行を遅らせる等のインソールを作成する。インソールを入れたことによって、歩き方が改善され痛みの訴えも軽減した。
- ・近年では、南海トラフ巨大地震において最大級の揺れや、火災、津波など起きると予測されている。そのため、当施設でも防災対策や防災備蓄を備えている。
- ・今年度、残念ながらお二人の入所者がお病気などでお亡くなりになられた。高齢化や重度化が進んでおり、医療との連携や看取り等への対応が求められる。ご本人やご家族に寄り添いながら、穏やかに人生の最後を過ごせるよう看取りについて更に検討して対応していきたい。また、身体、知的、精神の障害だけではなく、多種多様な（強度行動、発達、視聴覚等）特性にどう対応するか課題であり、職員全体で研鑽を積み重ねていきたい。

令和5年度 堺あすなろ園 事業報告

利用者数 (令和6年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	定員に対する稼働率
就労継続支援 (B型)	12	12	11.41	95%
生活介護	38	42	36.65	96%
合計	50	54	48.06	96%

《利用者の入退所状況》

	退所者数	入所者数
就労継続支援 (B型)	0	0
生活介護	0	0
合計	0	0

<事業の総括>

今年度は、「新型コロナウイルス感染症」の位置づけが「5類感染症」になったことから様々な活動に取り組むことができた。特に行事に関しては4年ぶりに春の行楽行事、秋の日帰り旅行、お食事会、あすなろフェスタを実施することができた。

日中の余暇活動に関しても自粛していたカラオケや班合同での活動を実施できた。

作業に関しては、既存の業者の撤退や作業量の減少もあり新たな作業の開拓に努めていく。

行事・自治会活動

<行事>

	生活介護	就労継続支援 (B型)
5月～6月 春の行楽行事	① 月化粧ファクトリー ② サバーファーム ③ くろまろの郷・花の文化園 ④ ワールド牧場	ハーベストの丘
10月～11月 秋の日帰り旅行	① やぶ果樹園 ② 千早赤阪村マス釣り ③ 海遊館 ④ エキスポンティ (ニフレル)	海遊館
10月26日	あすなろフェスタ	あすなろフェスタ
2月～3月 お食事会	① 木曾路 ② IMU (韓国料理) ③ 木曾路 ④ ステーキガスト	ステーキ「どん」

・毎月、講師をあすなろ園に招きリズム体操を実施。

<自治会>

- ・自治会新聞を年4回発行できた。
- ・花壇に球根を植えたり、当番を決めて水やりをしたりと一年を通して行えた。
- ・今後の活動としてイベント等の見直しを行い、他の係と連携をとり自治会活動の幅を広げたい。

防災

- ・6月14日 地震火災避難訓練 (自主)
- ・9月～11月 随時 各班で非常時避難場所 (福泉小学校、福泉東小学校) に徒歩にて避難訓練
- ・11月14日 火災避難訓練 (消防署立合)
- ・2月8日 水害避難訓練 (自主)

どの訓練も皆慣れており落ち着いて行動することが出来た。

研修

実施日	テーマ及び講師	備考
令和5年 11月3日	「強度行動障害への理解について」 場所：梅文化会館 第一講座室 講師：さわらび診療所 精神科医 稲垣 亮祐氏	法人研修
令和5年 11月17日	「交通安全講習会」 講師 車両管理部長 岩井 正信氏	
月に一回程度	ケース会議（各利用者近況報告・検討会議を行う。）	年 12 回
令和5年 8月25日 8月29日	実践交流会 テーマ「ホントのねがいをつかむ」 講師：佐藤 比呂	オンライン開催
3ヶ月に一回	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会	

<課題と反省>

- ・今年度は梅文化会館で法人研修を行った。基本的には全員参加だが欠席の人には録画での研修を行った。
- ・例年通り各班担当が1人一回ずつ発表する形で全員平等に発表の機会がいきわたった。

給食

<考察・今後の取り組み>

例年同様、衛生面に留意しながら適温給食の実施・個人の食事形態の要望に添えるよう努めた。また、アンケート等の嗜好調査を実施し、参考としながら季節感や時好も取り入れた給食提供を心掛けた。昨年度、反省に上げていた新しい弁当業者の開拓だが、探し出すまでには至っていない。引き続き注力していきたい。また、災害時備蓄食品（缶詰入り黒豆パン）が今年度末頃に消費期限を迎えるにあたり、避難訓練実施日に合わせて昼食提供。缶詰のまま提供し、各班で開封してもらう形をとった。災害に対する意識づけに繋がったとはいづらいが、今年度は猛暑だった事もあり、有事となった際、夏場の消費量だと一日分ももたないかもしれないと言う結論に至った。飲料備蓄量を大幅に増やしていた中で能登半島地震が発生し、改めて災害に備えていけたらと思った。

保健

<健康診断> 1回目… 5月26日、2回目…11月2日

- 胸部レントゲン・心電図（利用者は女性のみ、職員は全員）・血液検査・尿検査・聴力（35歳と40歳以上の職員のみ）・検便（希望職員のみ）身長・体重・血圧・腹囲
- ・利用者の受診表裏面（病歴）は例年担当職員で記入していたが、秋実施の際は受診表裏面のコピーを配布し、事前にご家庭等に回答してもらう形をとった。
- 今後も同じ形を随時実施するのか、年に1回か、不定期かは検討していく。

<歯科検診> 1回目…6月15日、2回目…11月30日

- ・コロナ禍で休止していた歯科検診を平成31年以来、久しぶりに実施した。時間が午後から午前になり、他事業所では若干の混乱があった様子。また訪問歯科を利用しているグループホーム利用者が11月実施分より園では受診しないとなった事もあり、受診者が減り、(78人→59人)短時間で終了できた。

<ヘルスチェック> 毎月1回、体重・血圧・脈拍・体温を測定

<ドクター相談> 毎月1回、内科医に嘱託医として往診していただいている。

<感染症対策>

- ・検温（朝・夕2回。その他必要に応じて昼にも1回。）
- ・外出から戻った際の手洗い、送迎バス乗車前のアルコール消毒
- ・定期的な室内換気
- ・ドアノブ等の消毒

<振り返り>

- ・コロナウイルスに加えてインフルエンザの感染者もみられたが、大幅な拡大もなく過ごす事ができた。今後も感染予防を励行していけたらと思う。

生産活動

<生活介護班>

生活介護班は、村上敷物（木管）、ヒラマツ（ネームプレート）、イクロス（タオル）、銀のさら（お箸）、森井製作所（バネ）、大賀（検尿セット・スピッツ作業）に取り組んだ。またスポット作業として中尾食品（ところてんシール貼り）にも取り組んだ。尚、昨年度取り組んでいた米田商店（空き缶潰し）については、衛生的観点から今年度は取りやめた。

<就労継続B型班>

大賀（検尿セット）、森井製作所（バネ）、自主製品（ふきん）、そして新規作業として9月よりふぁんたじい（ポチ袋）に取り組んだ。また、スポット作業としてグットウィル（輪縫いタオル）にも取り組んだ。尚、堺トレード（建築部品）については7月以降受注がストップ状態である。

<振り返り>

生活介護は3班、4班は作業の種類がいくつかある一方で、1班、2班についてはほぼ村上敷物（木管）に頼っている状況である。利用者に合う作業を提供出来るよう、新規の作業の開拓に努めてはいるものの（特に1班、2班の取り組める作業）難航している。収支については昨年とほぼ同じであった。収支バランスに合わせて今後ご利用者へ還元していく。

就労継続B型は今年度の収支は昨年度とほぼ同じであった。利用者の作業ペースは上がった人が多くなっている。量産することで、収入のアップにつなげていきたい。

<授産収支>

	収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者1人当たりの 平均工賃/月
生活介護	605,943 円	337,590 円 (337,590 円)	268,353 円	686 円
就労継続B型	942,775 円	1,208,506 円 (1,163,400 円)	-265,731 円	8,079 円
合計	1,548,718 円	1,546,096 円 (1,500,990 円)	-2,622 円	

令和5年度 あすなろ万崎の郷 事業報告

(あすなろ万崎の郷・もみの木)

利用者数 (令和6年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	稼働率
万崎の郷 (生活介護)	10	13	11.43	109%
もみの木 (生活介護)	10	8	7.08	68%
合計	20	21	18.51	93%

《利用者の入退所状況》

	退所者数	入所者数
万崎の郷 (生活介護)	1	0
もみの木 (生活介護)	3	0
合計	4	0

＜事業の統括＞

今年度、5月より新型コロナウイルスが2類から5類に変わり、少しずつ課外での活動を今までの物に近づけられるように工夫しながら取り組んできた。利用者の皆さんも課外での活動を楽しみにされ、それが皆さんの情緒の安定にもつながっていた。

今年度も前年度に引き続き、感染防止対策を行ってきた。新型コロナウイルスの大きな流行はなく、どちらの事業所も活動を継続することができた。これからも継続して感染防止対策に取り組んでいきたい。

創作活動や調理体験など日中活動も、さらに充実させ季節に応じた内容の活動を提供することができた。どちらの事業所とも、利用所の高齢化に伴う機能低下が少しずつみられるようになってきている。利用者個人個人にあった活動を検討し、提供していくことが今後の課題である。

行事

- ・春の行楽行事 万崎の郷…5月23日(火) サバーファーム
もみの木…5月24日(水) 原池公園

どちらの事業所の利用者の方も、久しぶりの課外での活動でいつも以上に楽しんでおられた。バーベキューが好評で、皆さんおいしそうに召し上がられていた。

- ・万崎の郷交流会 10月3日(火)
AM 万崎の郷にて、さつま芋堀り・玉入れ大会 PM 各事業所においてレクリエーション大会
利用者の方同士、会うのが久しぶりだったこともあり、万崎の郷での芋堀り・室内でのレクリエーションで一緒に活動でき大変喜ばれていた。

- ・秋の行楽行事 万崎の郷…11月28日(火) やぶ果樹園
もみの木…11月17日(金) やぶ果樹園
どちらの事業所も天候に恵まれ、皆さんミカン狩りを楽しまれていた。ミカン狩りは、各所に畑があり、歩行に不安がある方も楽しむことができていた。

- ・新年会 万崎の郷…1月19日(金) 木曾路 岸和田店
もみの木…1月23日(火) 和食さと 狭山店
外食されることが少ない方が多く、レストランでの食事はとても楽しみにされていた。メニューを選択メニューにすることで、自分で選んで注文できたのが良かった。

日中活動

万崎の郷

前年度に引き続き、午前中は体力づくりの後、個々のニーズに合わせて木管作業や機能訓練などに取り組み、午後は園芸活動や造形、調理体験、レクリエーション等季節に合わせた活動を意識して提供してきた。新型コロナウイルス感染予防が緩和され、活動の幅が広がり、ドライブや行楽行事の再開で楽しみが増え、利用者の情緒の安定にもつながったと思われる。

次年度より活動時間が増加するため、活動の取り組み方を検討する。新たな生活リズムをスムーズに受け入れ、安定して過ごして頂けるよう努めたい。

もみの木

今年度は、午前中は作業中心に、午後からは運動として「歩く」ことを中心に活動に取り組んだ。また、畑に出て、野菜の苗植えや収穫、協力して壁面作りなどにも取り組み、喜びや達成感を味わって頂けた。余暇支援やレクリエーション・調理体験なども取り入れて、楽しむ時間も提供することができた。

引き続き次年度も、利用者それぞれのニーズに合わせた活動を考え、提供していきたい。

防 災

地震・火災避難訓練（自主訓練） [2 事業所] 6月22日(木)
火災避難訓練（消防署立会訓練） [万崎の郷] 11月14日(火) [もみの木] 11月21日(火)
非常災害避難訓練（大規模地震時） [万崎の郷] 5月2日(火) [もみの木] 5月29日(月)

<反省>

万崎の郷

- ・避難時、机の下にもぐる・窓から離れる・マスクを口に当てる・身をかがめるなどの行動は、各自行うことができていた。また、火点を避けて避難することもできていた。
- ・消防署より、避難後の人数把握を確実にを行うようにと助言を受けた。今後気を付けるようにしていきたい。

もみの木

- ・火災避難訓練では、水消火器の訓練も消防隊の話をよく聞き、実施することができた。
- ・消防署より、全員の所在確認ができたため、避難完了後の室内の点検を行っていなかったが、実際の場面ではパニックになったりして点呼が不十分なケースもあるため、必ず目視の確認を入れるように指摘を受けた。
- ・非常災害避難訓練…避難場所、避難経路の確認をした。安全面に配慮し、避難場所までの誘導を実施した。皆さん混乱なく、落ち着いて取り組んでいた。

研修

実施日	テーマ及び講師	備考
令和5年 11月3日	「強度行動障害への理解について」 場所：榎文化会館 第一講座室 講師：さわらび診療所 精神科医 稲垣 亮佑氏	法人研修
令和5年 [万崎の郷] 12月19日 [もみの木] 12月21日	交通安全講習会 「交通事故発生状況」 「令和5年度堺あすなる会 事故・トラブル報告」 「追突事故 交差点事故」ビデオ研修 講師：車両管理部長 岩井 正信氏	
毎月	ケース会議（各利用者の近況報告・検討会議を行う。）	年11回
3ヶ月に一回	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会	各事業所にて
令和5年 8月25日	実践交流会 テーマ「ホントのねがいをつかむ」 講師：佐藤 比呂	オンライン開催

<課題と反省>

新型コロナウイルス感染が落ち着きを見せ、集団研修が可能になりここ数年ぶりに法人研修の開催となった。対面で行う意見交換は意見も活発になり、改めて直接会って話ができることの良さを感じられ、何気ない会話からの情報交換などとても有意義な時間となった。次年度では研修会議で意見に出た階層別での研修にも取り組んでいければと思う。

保健

- <健康診断>1回目 5月26日(金) 2回目11月2日(木)
(内容)胸部レントゲン・心電図(男性)・血液検査・尿検査・血圧・体重
- <歯科検診>1回目 6月15日(木) 2回目 11月30日(木)
- <ヘルスチェック>
毎月1回、体重・血圧・脈拍・体温の測定を行う。
- <ドクター相談>
毎月1回、嘱託医(内科医)往診。
- <感染症対策>
■新型コロナウイルスの感染予防対策
- ・通所時及び帰宅前の手洗い・アルコール消毒
 - ・検温(通所後、帰宅前)
 - ・室内換気
 - ・ドアノブなどのアルコール消毒
 - ・マスクの着用
 - ・うがい・手洗いをこまめに行う。

授産活動

万崎の郷

今年度も野菜の販売や木管、廃品回収で得た収入で夏季、冬季賞与を支給。評価表は廃止。出席日数に応じて一律支給した。夏場に育てた野菜は猛暑の影響で上手く育たないものが数種類あったが、冬野菜は比較的生育が良く、堺あすなろ園の給食や職員向けに販売することができた。全体の収入は4割ほど下がったが、畑作業にかかる費用が減り、収支はほぼ変わらなかった。

次年度は一年を通して、育てる野菜の種類や時期を見直し、収穫の楽しみや育てた野菜を食べる喜びを感じてもらえるよう継続して取り組んでいきたい。また、活動を通じて個々の運動機能や日常生活動作などの維持向上を目指していく。

もみの木

中谷金属工業(株)からの受注は、工具セットのみであったが、その工具セットも現在は中断している。今後の継続的な取引があるかは不明である。OM ネットワークからは、様々な商品の受注があり、安定している。塩久印刷紙器(株)からはクラフト小箱の受注がスポットで入ってきたので売り上げが上がった。その為冬のボーナスの支給を増やすことができた。

次年度も同じ作業を継続して取り組めるように授産活動を継続させていく。また、作業の少ない時に個々のニーズに合わせた活動も検討し、提供していくようにしていきたい。

<授産収支>

	収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者1人当たりの 平均工賃/月
万崎の郷	58,575 円	57,786 円 (25,000 円)	789 円	148.8 円
もみの木	183,377 円	173,574 円 (145,300 円)	9,803 円	1513.5 円
合計	241,952 円	231,360 円 (170,300 円)	10,592 円	

令和5年度 アトリエhana 事業報告

(アトリエhana・ゆめ工房・Link みいけ)

利用者数 (令和6年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	定員に対する稼働率
アトリエhana (生活介護)	10	12	9.24	92%
ゆめ工房 (就労継続B型)	10	12	9.85	99%
Link みいけ (就労継続B型)	10	9	8.17	82%
合計	30	33	29.22	91%

《利用者の入退所状況》

	退所者数	入所者数
アトリエhana (就労移行)	0	1
ゆめ工房 (就労継続B型)	0	0
Link みいけ (就労継続B型)	1	0
合計	1	1

＜事業の統括＞

個別支援計画に基づき、ご家族・相談支援事業所等の関係機関との連携を図りながら利用者本位の支援を行った。今年度より外出行事が再開となり、利用者の希望を伺いながら余暇支援を実施することができた。

行事

	事業所名	日程	行き先
春の行楽 行事	アトリエhana	5月2日(火)	森の小径
	ゆめ工房	6月2日(金)	ホテルユニバーサルポート(バイキング)
	Link みいけ	5月8日(月)	はや泉北の郷・映画鑑賞(アクロスモール)
秋の行楽 行事	アトリエhana	11月27日(月)	月化粧ファクトリー
	ゆめ工房	11月1日(水)	奈良「金魚ミュージアム」
	Link みいけ	11月24日(金)	月化粧ファクトリー
新年会 又は お食事会	アトリエhana	1月6日(土)	はや泉北の郷
	ゆめ工房	2月1日(土)	はや泉北の郷
	Link みいけ	2月9日(金)	がんこ大阪狭山店

防災

[アトリエhana]	7月12日(水)	火災避難訓練(自主)
[ゆめ工房]	8月3日(木)	火災避難訓練(自主)
	3月7日(木)	地震火災避難訓練(自主)
[Link みいけ]	6月3日(土)	火災避難訓練(自主)・美原防災センター見学
	11月27日(月)	火災避難訓練(消防署立会)
	1月30日(火)	非常災害避難訓練

保健

＜健康診断＞1回目 5月26日(金) 2回目 11月2日(木)
 (内容) 胸部レントゲン・心電図(男性)・血液検査・尿検査・血圧・体重
 ＜歯科検診＞1回目 6月15日(木) 2回目 11月30日(木)
 ＜ヘルスチェック＞
 毎月1回、体重・血圧・脈拍・体温の測定を行う。

<感染症対策>

- ・検温（朝・夕2回。その他必要に応じて昼にも1回。）
- ・外出から戻った際の手洗い、送迎車乗車前のアルコール消毒
- ・定期的な室内換気
- ・ドアノブ等の消毒など

研修

実施日	テーマ及び講師	備考
令和5年 11月3日	「強度行動障害への理解」 場所：拇文化会館 第一講座室 講師：さわらび診療所 精神科医 稲垣 亮祐氏	法人研修
令和5年 12月18日	「安全運転講習」 講師：車両管理部長 岩井正信氏	
令和5年 8月25日	実践交流会 テーマ「ホントのねがいをつかむ」 講師：佐藤 比呂	オンライン開催
3ヶ月に一回	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会	各事業所にて
毎月	ケース会議（各利用者の近況報告・検討会議を行う。）	年12回

【アトリエ hana】

<生活介護>

11名の利用者でスタートし、10月より Link みいけより1名契約となり12名にて年度を終えた。デイハウスクローバーから移動された3名（70代2名を含む）を迎え入れ、これまでは授産作業が中心であった日中の活動を見直した。1階は体操・製作等でゆっくりと過ごしていただけるプログラムを、2階は年齢が比較的若く、作業意欲も高い利用者を中心に活動してもらえるようなプログラムを各々作成し取り組んだ。

日中活動として、季節に応じた事業所内でのイベントを計画し、その開催日に向けて製作等の準備を行った。また、調理実習については月2回の開催とし、利用者でメニュー・調理等の担当を決め意向に沿いながら進めることができた。健康管理については、看護師の助言のもと日々の観察・バイタルチェックを通じて、体調異変等が見られた時には関係機関との連携を図り速やかに対応することができた。

授産活動については「古墳マグネット」を制作、堺市博物館に買い取り販売として取引が始まった。授産コンクールに古墳マグネットで応募した。残念ながら入賞とはならなかったが、次回も継続して応募し、引き続き利用者の制作意欲を高める機会、大勢の前で利用者に商品をアピールする機会を提供していきたい。

<授産活動>

- ① トールペイント・・・自主製品の製作、販売
- ② 下請け作業・・・(株)大賀（検査キットの組立・袋入）
- ③ 委託販売・・・(株)カワニシ（地域小学校からの依頼による体操服等の販売）

<その他の活動>

- ① 買い物・調理実習・ドライブ・映画動画鑑賞・壁面製作・カレンダー作り等
- ② ウォーキング 体操（TVを使用してのストレッチ・体操等）ストレッチ
- ③ 利用者自治会活動（余暇についての意見交換・調理実習メニュー・担当決め等）

【ゆめ工房】

<就労継続支援B型>

12名でのスタートで、年度末まで利用者の増減はなかった。年度途中でコロナウイルス感染拡大防止による外出制限が緩和され、通所が叶わなかった2名が利用再開となった。

利用者自治会について、これまでは不定期開催であったが、より利用者主体で進めていただくため、毎月1回定期開催とし、余暇の意見交換はもちろん、利用者自治会への要望・自身の考え・思いを発

していただく機会を設けた。

授産活動については、地域中学校等の出張販売への利用者同行も再開し、お客様とのやり取りを通して、相応しい言葉遣い・挨拶を実践する機会を提供することができた。また、新製品として堺にちなんだ商品「古墳パイ」を製造し、バザー等で販売を行った。コンクールに応募、僅差で入賞とはならなかったが、また継続してチャレンジしていく。

<授産活動>

- ① 自主製品（シフォンケーキ・パイ等焼き菓子）製造
- ② 自主製品出張販売（地域中学校・東区役所等）
- ③ （株）大賀（検査キットの組み立て・セット・封入）

<その他の活動>

- ① 清掃・調理実習・ドライブ・映画鑑賞・壁面制作
- ② 利用者自治会活動（余暇についての意見交換・調理実習メニュー・担当決め等）
- ③ エアロビクス（リズム体操）…月1回講師の先生に來所いただき身体を動かす。

【Link みいけ】

<就労継続支援B型>

10名の利用者でスタートし、10月より1名アトリエ hana に移り、9名の在籍にて年度を終えた。授産については手ぬぐい折りの作業が減少したが、代わりに雑貨の袋入れ作業が入り、一年を通して下請け作業は途切れることはなかった。自主製品として4年間継続してきた焼き芋は原材料・燃料価格の高騰により終了することにした。

地域への活動については、近隣センター（花植え・門当番等）、校区内イベントには例年通り参加した。地域会館で開催された御池文化祭では、利用者の作品として「苔玉」を出店した。12月のキャンドルナイトでは、児童職員と合同で地域会館にてミニうどんを販売した。

余暇等については主に土曜日に長距離ウォーキング、ドライブを積極的に取り入れた。

<授産活動>

- ① 店舗委託販売（堺あすなろ会自主製品・陶芸・体操服（カワニシ））
- ② 下請作業
 - ・角野晒染（株）：手ぬぐい畳み・封入
 - ・T2 企画：キャンプ用品の封入れ
 - ・（株）大賀：検査キットの組み立て・封入
 - ・森井製作所：スイッチロック（ばね）の組み立て
 - ・OM ネットワーク（雑貨の封入れ）

<その他の活動>

- ・体操（毎日午後）・清掃活動・壁面制作・ウォーキング・ドライブ等

<授産収支>

	収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者1人当たりの 平均工賃/月
アトリエ hana	157,515 円	241,818 円 (118,400 円)	-84,303 円	1,096 円
ゆめ工房	2,454,050 円	3,040,483 円 (1,613,500 円)	-586,433 円	11,205 円
Link みいけ	1,044,726 円	1,607,293 円 (1,188,200 円)	-562,567 円	10,423 円
合計	3,656,291 円	4,889,594 円 (2,920,100 円)	-1,233,303 円	

今年度のまとめ（通所事業所）

- ・利用者一人ひとりのニーズに沿って、より良い支援が行えるよう個別支援計画を立案し課題を常に目標において支援する。
→各事業所の特性を生かし、体力作りや余暇活動、畑作業、製造販売、ポスティング、交流会などに取り組む。
- ・成人病や感染症の予防に努め、体力や機能面の維持向上をめざし、健康に過ごせるようにする。
→個々の体力に合わせ、散歩やリズム体操を行ったりリクリエーションを行ったりして、楽しんで体力の維持に努め健康に過ごせるようにした。
消毒や換気など感染症の予防を行った上ではあったが、春・秋の行楽行事や事業所内での交流会、お食事会などコロナ以前の行事にも取り組むことができた。集団での外出や食事を楽しむことができた。
- ・研修の機会を設け、学んだことを職員全体で情報を共有し研鑽を積み支援に生かしていく。
→講師を招いての対面での法人研修や堺市内の福祉事業所研修である実践交流会（リモート開催）に参加し、他の事業所職員と話合いや意見交換ができ、交流につながった。
- ・利用者の高齢化や及び家庭環境の変化に伴い、家族や関係機関と更に連携を図り、利用者の想いや状況に対応していけるよう支援する。高齢の利用者が、より安全に充実した活動や支援が行えるよう体制や活動内容を検討し進めていく。
→入所施設（短期入所）や地域支援などとの連携を密に取り、利用者の希望や状態に合わせ活動できるように取り組んだ。
- ・利用者の確保について、関係機関との情報共有を進め、新規利用者の確保や利用者に応じた場への移動を行っていく。
→支援学校の説明会が対面で行われ、多くの保護者の方に来ていただけたが、新規の利用者の確保には繋がらなかった。
- ・施設祭りや地域清掃等、地域における公益的な取り組みを行い、地域の方とのふれ合いを深めていく。
→地域清掃は継続して行ったが、施設祭りは、施設内だけで行い、ご家族や地域の方に来ていただくまでには至らなかった。
- ・地震、風水害等様々な災害に備え、ご家族・各事業所・各関係機関などとの情報共有や円滑な連絡体制を構築し、協力連携し合えるようにする。非常時に備え、食料や備品を整備する。避難や救急蘇生法など訓練を行い、安全に迅速に対応していきたい。
→令和 5 年 5 月以降避難訓練も消防署の立ち合いの元実施できるようになった。救急蘇生法や AED の使用の仕方については、動画をみでの研修となった。
令和 6 年度より、自然災害や感染症の BCP(事業継続計画)が義務化され、各事業所で内容について検討を行い作成した。

令和5年度 共同生活援助（グループホーム） 事業報告

この1年間における成果・課題は以下の通りである。

<成果>

- ① 新規利用者受け入れが進み、空床はわずかとなる。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に変更となって以降、新規利用者受け入れも徐々に進んだ。法人内外から新たに3名が入居。令和6年3月末現在、定員48名のうち47名が入居中である。令和6年4月1日付で1名の退居者が予定されているため、新年度当初は空床2名分になるが、早々に新規受け入れ調整を進めていく。

- ② 医療ニーズへの迅速な対応が可能になった。

医療を必要とする利用者が、必要な時に治療を受けられる体制を整えるため、令和3年度以降訪問診療の活用を進めてきた。

○耳原鳳クリニック（内科）月1回

・いずみ…6名 ・あすなる…3名 ・ラリマ福泉…2名 ・ラピスくさべ…7名 ・くさべ…1名
・こさか…2名 計21名

○なかやまメンタルクリニック 月2回

・いずみ…4名 ・ラリマ福泉…1名 ・ラピスくさべ…3名 ・こさか…1名 計9名

○耳原歯科診療所 月1回

・いずみ…7名 ・ラリマ福泉…2名 ・ラピスくさべ…6名 ・こさか…2名 計17名

内科・精神科訪問診療の活用により、常時治療を必要とする方に限らず定期的な受診機会が得られ、体調に関する相談がしやすくなった。また、体調不良時には往診が可能となり、迅速な受診と薬の処方が可能な体制が整いつつある。予防接種等に関しても依頼できるため効率化を図ることができた。歯科についても訪問診療を実施することにより、虫歯の早期発見や歯周病予防につながるなどの成果がみられた。今後も訪問診療機関との連携を図るとともに、内科、精神科、歯科に限らず他の診療科を随時受診できる体制を整えていく必要がある。

- ③ 職員間連携の強化、迅速な情報の発信と共有、情報の有効な活用

グループホームは2事業所で9か所のホームを運営している。一つ一つのホームは4人から9人定員で、施設に比べると小さな単位となるため、住み心地や刺激の少なさという利点はあるが、管理者やサービス管理責任者、生活支援員の移動範囲も広く、運営上非効率になりやすい。スタッフも全員が揃うことは少なく、管理者・サービス管理責任者・生活支援員・世話人間で情報をいかに早く共有していくかが課題である。

これらを解決していくために、①デジタルツールの積極的活用（「LINE WORKS」による情報発信と共有、クラウド型記録システム「ケアコラボ」の活用による利用者情報の取得を容易にするなどの整備を令和4年度までに実施してきた。令和5年度は各世話人の習熟度も高まり、情報の即時共有を進めることができた。

また、令和5年度はこれに加えて週1回の職員（管理者・サービス管理責任者・生活支援員）ミーティングの時間を設け、利用者支援の方針を共有と、実行するまでのタイムラグが生じないように努めてきた。デジタルツールだけでは解決できない職員間の良好な人間関係を基盤としたチーム支援を進めるうえで重要な時間となっている。

- ④ 介護ロボットの導入による安全な生活環境の整備と見守りの体制づくり

令和4年度に引き続き「ロボット導入支援事業」を活用し、今年度は「眠りスキャン」を9台導入した。睡眠の状況を可視化することにより、利用者の安眠を確保しながら、睡眠・バイタル情報の取得が可能になっている。現在のところは全利用者に設置できないため、高齢の利用者を優先に設置。世話人からも見守りに対する心理的負担が軽減したとの声をいただいている。引き続き制度を活用しながら機器設置を進めていく。

<課題>

① 利用者の高齢化

利用者の高齢化に伴い一部利用者に身体機能および認知機能の低下がみられ、従来の支援体制や住環境では十分にニーズに応えることが難しくなっている。令和5年度も1名が年度いっぱい有料老人ホームに転居することとなった。

高齢化への対応は、「住環境」「介護技術および介護体制」「医療との連携」が重要であるが、従来のグループホーム制度では日中の世話人配置がなく、高齢になり、ゆったりと暮らしたいと思っても十分に対応できていないのが現状である。できる限り長年暮らしてきたグループホームでの生活が継続できることが基本であるが、必要に応じて介護保険事業者とも連携し、利用者にとってより適切な場において生活を送ることができるよう柔軟に支援しているところである。

② 世話人の高齢化及び人員の確保

多くの世話人は各ホームの開設当初から利用者の支援に携わっており、利用者と共に年数を重ねてきている。利用者にとって安心できる存在であり、各利用者の安心安全な生活に大きく貢献しているといえるが、一方で世話人の高齢化に伴うケガや病気、家族の介護等を理由とした休暇が必要になるなど支援体制の脆弱さが年々浮き彫りになっている。

現在勤務する世話人の年齢は65歳以上が半数を超える状況にあり、その中でも令和5年度中に75歳を迎える世話人が3名勤務。この3名が令和5年度内で契約を終える見込みとなったため、代替となる世話人を募集してきた。しかしながら年度内に2名の新規採用のめどが立たず、契約を延長せざる得ない状況となっているため、引き続き募集を継続していく。令和6年度も2名が75歳を迎えるため、できるだけ計画的に新規世話人の採用を進めていく必要がある。

③ グループホームの新設・グループホームの効率的な運営等

2020年10月にグループホームいずみを開設して以来、新たな入居ニーズへの対応について具体的な検討は進んでいない。また、市内9カ所あるグループホームについても利用者の高齢化や非効率な運営を改善していくため再編が必要になると見込まれる。これら課題について来年度以降具体的な検討を進めていく必要がある。

<入居者状況> 令和6年3月31日現在

ホーム名	定員	内訳	退去者	新規入居者	現員
あすなろ	5	男5	0	0	5
ラピスくさべ	7	男4、女3	0	0	7
ラリマ福泉	5	男5	0	0	5
くさべ	4	男2、女2	0	1	4
こさか	4	男2、女2	0	0	4
サンももやま	5	男3、女2	1	0	4
第2ももやま	5	男5	0	2	5
いずみ	9	男9	0	1	9
北斗	4	男4	0	0	4
計	48	男39、女9	1	4	47人

<住宅種別> 令和6年3月31日現在

サンももやま	府営住宅2室 1階	第2ももやま	府営住宅2室 4階
北斗	戸建て2階	いずみ	専用住宅1階
あすなろ	戸建て2階	ラリマ福泉	専用住宅1階
ラピスくさべ	専用住宅1階	くさべ	府営住宅2室 5階
こさか	市営住宅2室 1階		

<各ホームの支援体制> ※休日体制の◎は日中支援体制あり 令和6年3月31日現在

ホーム名	管理者	サビ管	生活支援員	世話人・生活支援員	宿直体制	休日体制
あすなろ	1名	1名	2名	3名	×	○
ラピスくさべ				9名	○	◎
ラリマ福泉				7名	○	◎
くさべ				2名	×	○
こさか				5名	○	○
サンももやま		1名		5名	○	◎
第2ももやま				3名	○	○
いずみ				8名	○	◎
北斗				3名	×	○

<障害支援区分別の入居者数> 令和6年3月31日現在

非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
0	1	4	13	17	9	3	47

<利用者の年齢> 令和6年3月31日現在

10～	20～	30～	40～	50～	60～	65～	70～	75～
1名	1名	3名	12名	21名	5名	0名	4名	0名

令和5年度 地域生活支援センター「フィットウェル」事業報告

1. 計画相談支援・障害児相談支援（令和6年3月31日現在）

・契約者数...計画相談支援 290名、障害児相談支援 47名、地域定着支援 41名

2. 計画相談支援（サービス等利用計画作成件数）※（ ）内は令和4年度

指定障害児相談支援（障害児支援利用計画作成件数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	30 (38)	18 (27)	29 (34)	37 (35)	25 (38)	23 (21)	39 (47)	22 (26)	25 (26)	26 (25)	29 (26)	30 (26)	333 (369)

モニタリング件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	130 (106)	116 (201)	109 (102)	109 (103)	109 (206)	124 (146)	113 (108)	119 (221)	124 (131)	108 (134)	139 (112)	130 (137)	1430 (1707)

3. 指定一般相談支援 ※（ ）内は令和4年度

地域定着支援契約者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	40 (40)	40 (42)	40 (42)	40 (42)	40 (44)	41 (43)	42 (42)	42 (42)	42 (40)	41 (41)	41 (41)	41 (40)	490 (499)

地域定着支援における緊急時支援実施件数 ※（ ）内は令和4年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	2 (3)	1 (2)	0 (1)	3 (1)	3 (2)	1 (10)	0 (1)	0 (2)	2 (1)	5 (0)	2 (0)	1 (1)	20 (24)

地域移行支援契約者数...0名

4. 会議又は研修への出席

会議	研修・講師
<ul style="list-style-type: none"> ・南区障害者自立支援協議会（年3回） ・南区指定相談支援事業所連絡会（月1回） ・堺市障害者相談支援専門員協会（月1回） ・所内会議（年6回） ・主任相談支援専門員連絡会（年2回） 	<p>【研修】</p> <p>法人研修（地域支援部にて実施）</p> <p>各関係機関主催による研修会（随時）</p>

5. 今年度の総括

今年度は退職者の予定があったため非常勤専従1名を雇用し、常勤専従4名、常勤兼務1名（管理者）、非常勤専従2名、非常勤兼務1名の8名体制で従事。うち3名は主任相談支援専門員であり、地域の相談支援事業者をサポートする役割を担っている。また、事業所としても積み重ねた相談援助技術のノウハウを活かして、地域社会に貢献するため、新規に開設する相談支援事業所に対するコンサルテーション事業を令和3年度より実施。令和5年度は3事業所の相談に応じ、開設前段階から運営のノウハウや相談支援専門員としての心構え、相談支援を行う上でのポイント等についてアドバイス。個々の経験に応じた対応を行ってきた。この間かかわってきた事業所からは、わからないことがあれば相談の連絡が入るなどしており、随時対応している。今後も地域の相談支援がより充実するよう積極的に取り組んでいきたい。

指定特定相談支援、障害児相談支援については引き続き多くの方に利用いただき、サービス利用のための計画案作成やサービス利用状況を確認するためのモニタリングを実施。障害者総合支援法となる以前より関わる利用者はすでに10年以上の関わりがあり、利用者には日常生活を送るうえで安心して相談いただける機関となっている。また、当事業所が信頼できる機関であり続けるために相談支援専門員間の情報共有や助言指導が随時受けられる体制に重きを置き、毎日のミーティングでの経過把握および情報の共有、管理者や主任による助言指導が随時受けられるよう心掛けた。

指定一般相談支援（地域定着支援）においては主に地域で一人暮らしをしている方や高齢の家族と暮らす方と契約し、地域で安心して生活が続けられるよう、24時間体制で利用者からの電話による相談を受けるとともに、必要に応じて利用者の障害特性に起因した緊急事態に対し、電話や訪問による対応を行い、利用者の救急搬送時や急な体調不良、住宅のトラブルなど緊急時に必要な支援を行った。

相談支援専門員は地域支援部の一員としてグループホームや地域活動支援センターと協力し合い、相談支援専門員が持っている各制度に対する知識を生かしながら日々の業務を行っている。今後も「理念に基づいた支援」「法令の遵守」「チーム支援」「資質の向上」「関係機関とのネットワーク」「社会への貢献」をキーワードに取り組み、地域に暮らす障害のある方やそのご家族にとって必要とされる相談員、事業所となれるよう研鑽を積み重ねていきたい。

令和5年度 地域活動支援センター「わかば」事業報告

1. 延べ通所者数

障害種別	延べ通所者数	18歳未満	18歳以上 65歳未満	65歳以上
身体障害	6人	0人	6人	0人
知的障害	1,898人	0人	1,811人	87人
精神障害	371人	0人	371人	0人
発達障害	0人	0人	0人	0人
高次脳機能障害	0人	0人	0人	0人
難病	0人	0人	0人	0人
不明	0人	0人	0人	0人
家族	0人	0人	0人	0人
小計	2,275人	0人	2,188人	86人
見学・体験者数	100人	0人	99人	1人
合計	2,375人	0人	2,287人	87人

2. プログラム支援

プログラム名称	延べ 活動回数	延べ 参加者数	プログラム名称	延べ 活動回数	延べ 参加者数
さくら会	12回	177人	ランチタイム	1回	8人
さくら会実行委員会	13回	38人	コインケース作り	2回	15人
のんびり会	12回	41人	ふうせんバレー大会 (健康福祉プラザ)	1回	12人
わかば鉄道	12回	67人	火災避難訓練	1回	3人
身体障がい者学生交流会	9回	31人	花火大会 (旧保健センター横公園)	1回	14人
Wii(ゲーム)	153回	491人	お菓子作り(榎文化会館)	1回	15人
ダーツ	13回	29人	スリッパアート	1回	8人
公園へ行こう(荒山公園)	3回	28人	ミニ門松づくり	3回	14人
コーヒーかすの脱臭剤作り	2回	9人	クリスマス会(泉北ラボ)	1回	26人
おもちゃでゲーム	3回	12人	忘年会	3回	28人
パターゴルフ	1回	3人	初詣(多治速比売神社)	1回	7人
ゲーム大会	1回	10人	書き初め	1回	6人
デザートタイム	5回	51人	白玉ぜんざい	1回	11人
Wiiゲーム大会	2回	15人	そばめし	1回	16人
コードホルダー作り	3回	14人	恵方巻作り	2回	16人
非常食体験会	2回	16人	チョコ作り	2回	20人
ダーツ大会	1回	13人	梅のお花見(荒山公園)	1回	12人
カラオケ大会	3回	26人	お花見(荒山公園)	1回	10人
うちわ作り	3回	21人	ランチ会	3回	29人
夏祭り	3回	29人	わかばミーティング	9回	73人
延べ活動回数(合計)		293回	延べ参加者数(合計)		1,464人

3. 今年度の総括

今年度をもって令和3年度からの3か年の地域活動支援センター運営業務の委託契約が終了した。昨年度までは新型コロナウイルス感染症による一定の制限を余儀なくされたが、今年度は利用者の健康状態に留意しつつも、人数制限を設けることなく開所、プログラム活動ではミーティングを開催しひろく利用者からの意見を集め、利用者とともにプログラムを実施するという地域活動支援センター本来の運営を行うことができた。

今年度は新規契約者が5名。登録者数は83名となった。特に今年度は平日の日中の時間帯を活用し、利用していた日中活動系の事業所に通えなくなった方が新たな通所先を見つけ移行できるよう、マイペースに過ごせる居場所提供のほか、相談支援専門員をはじめとした支援者と連携した支援を行った。そのほか平日は個別相談、利用者同士のコミュニケーションを求めて来所される方が多く、地域活動支援員が話を聞き、適宜助言を行うことで利用者の不安解消や情緒の安定につながるよう支援を行うとともに、利用者同士のピアサポートが円滑に行われるよう側面的な支援を行った。

日曜日は生きがいや仲間づくりの支援として、プログラム活動を実施。5月以降毎月利用者主体のミーティングを開催し、「わかば」でやってみたいことテーマに意見交換の場を設けた。当事者活動さくら会は活動開始から20年が経過。年齢の上昇とともに身体的な機能の低下や離職される方が見られた。活動を通して現状を把握し、フットウェルと連携しながら必要な制度やサービスが利用できるよう支援を行った。また新たな活動として身体障害者学生交流会を開催。交流を通して互いに学生生活について意見交換が行われたほか、分身ロボット OriHime を活用した新たな社会参加のかたちを体験した。

堺市全体においては、委託契約が最終年をむかえるにあたり、次年度以降の地域活動支援センターが地域でどのような役割を果たすのか、いかに利用者主体の地域活動支援センターを目指すのかをテーマに、地域活動支援センター連絡協議会に参加するとともに、幹事センターとしても参画した。また南区障害者自立支援協議会に参加し、地域におけるネットワークづくりに関わったほか、毎月行政窓口や障害者基幹相談支援センターを直接訪問し、機関紙を配布したほか、ブログや公式 LINE を活用した情報発信を行うことで、地域活動支援センターを必要とする方への周知の取り組みを行った。

令和5年度 居宅介護・移動支援「陽だまり」事業報告

「堺あすなろ会」の特徴を反映して、ヘルパー事業は知的障害者へのガイドヘルパーの派遣が90%以上になっています。作業所などが休みの土曜日・日曜日・祝日のガイドヘルパー利用が中心です。入所施設（堺市内2施設）利用者のガイドヘルパー利用では平日のガイドヘルパーの利用も多くなっています。

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律上、ガイドヘルプサービスは、福祉サービス（介護給付）から外され、市町村が行う地域生活支援事業の中の「移動支援事業」として位置づけられています。

令和4年度～令和5年度の実績は次の通りです。

利用人数	令和4年度	令和5年度
移動支援	253名(月平均21名)	370名(月平均30名)
知的障害者(在宅)	71名(月平均6名)	75名(月平均6名)
知的障害者(施設入所者)	182名(月平均15名)	224名(月平均19名)
グループ支援(1:2)	0名	33名(月平均3名)
グループ支援(1:3)	0名	30名(月平均2名)
グループ支援(1:4)	0名	8名
身体介護	42名(月平均3名)	36名(月平均3名)
家事援助	5名	0名
合計	300名(月平均25名)	406名(月平均33名)

利用時間	令和4年度	令和5年度
移動支援	2406.5時間(月平均201時間)	2738.5時間(月平均228時間)
知的障害者(在宅)	691.5時間(月平均58時間)	790時間(月平均66時間)
知的障害者(施設入所者)	1715時間(月平均143時間)	1876.5時間(月平均156時間)
グループ支援(1:2)	0時間	72時間(月平均6時間)
グループ支援(1:3)	0時間	66時間(月平均5時間)
グループ支援(1:4)	0時間	8時間
身体介護	133.5時間(月平均11時間)	130.5時間(月平均11時間)
家事援助	45.5時間(月平均4時間)	0時間
合計	2585.5時間(月平均215時間)	2869時間(月平均時間)

	令和4年度	令和5年度
登録ヘルパー(実動者)	9名	12名

令和5年度 障害児通所支援事業 事業報告

(Link みいけ・Link にわしろ・Link ふかい)

Link みいけ (放課後等デイサービス)

<利用者数> (令和6年3月31日時点)

	定員	登録者数	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率
放課後等デイサービス	10名	22名	2,200名	7名	75%

<活動内容>

低学年層は近隣の公園に出かけ緑道では路面標示をまもり、すれ違う方とは挨拶を交わす、遊具遊びでは順番や譲り合うなどルールを守り活動を行った。

また グランドでは小集団でボール遊びや鬼ごっこなど他の児童や近隣の児童との関りを楽しめるように実施した。

緑道や公園のつくしやタンポポをつみ、虫取りや観察など季節を感じる散策を行った。

散歩・ウォーキング・ランニングを区別し個別に配慮し距離や速度また、フォームにも気をつけて個別または小集団にて実施した。

雨天時には室内で密にならないようにダンスや体操、小集団でのゲームを実施した。また 小ぶりの雨では 雨の日の散策を兼ねて、傘の使い方の練習を実施した。

<創作活動>

4月	桜
5月	鯉のぼり…フェルト使用、手縫い
6月	虹…お花紙、傘…折り紙
7月	七夕…折り紙、短冊
8月	ミシン…雑巾、アートケーション応募作品 (手形)
9月	敬老の日プレゼント…レジン箸置き
10月	コスモス…紙テープ
11月 12月	クリスマス木工制作…クリスマスツリー
2月	赤鬼・青鬼…厚紙
3月	梅の花…切り絵

<食事提供>

4月10日	カレーライス	7名	トッピング…目玉焼き・ハンバーグ・豆苗炒め
4月11日	親子丼	9名	
4月12日	お好み焼き・おにぎり	8名	
7月20日	カレーライス	10名	トッピング…チキンカツ・かぼちゃ・パプリカ炒め
8月10日	非常食	9名	レトルト牛丼・白ごはんパック
8月25日	カレーライス	10名	トッピング…トマト・オクラ・コロケ
12月22日	カレーライス	9名	トッピング…ウインナー・チーズ・ほうれん草
1月9日	カレーライス	10名	トッピング…ウインナー・ブロッコリー・蓮根チップス
3月22日	カレーライス	10名	ハンバーグ・春キャベツ・コーン

<クッキング>

4月4日	お花見弁当クッキング	9名	おにぎり・卵焼き・ミートボール・ブロッコリー
5月9日	おやつクッキング	10名	こいのぼり型ピザトースト
5月10日	おやつクッキング	5名	こいのぼり型ピザトースト
5月11日	おやつクッキング	10名	こいのぼり型ピザトースト
6月19日	おやつクッキング	10名	キラキラ紫陽花ゼリー

6月20日	おやつクッキング	10名	キラキラ紫陽花ゼリー
6月21日	おやつクッキング	8名	キラキラ紫陽花ゼリー
10月21日	昼食クッキング	8名	ラーメン・しめじと银杏の炊き込みご飯
11月20日	おやつクッキング	10名	餃子の皮ピザ
11月21日	おやつクッキング	10名	餃子の皮ピザ
11月22日	おやつクッキング	9名	餃子の皮ピザ
12月23日	クリスマス会	8名	焼きそば
1月10日	昼食クッキング	7名	うどん・炊き込みご飯
1月15日	おやつクッキング	9名	お餅つき
1月16日	おやつクッキング	9名	お餅つき
1月17日	おやつクッキング	7名	お餅つき
2月13日	おやつクッキング	10名	ガトーショコラ
2月14日	おやつクッキング	8名	ガトーショコラ
2月15日	おやつクッキング	10名	ガトーショコラ

<音楽療法>

月2回講師の方2名に来て頂き実施。

- ・第1水曜 グループA・B…各30分ずつの2部制で実施。
- ・第4水曜 グループC・D…各30分ずつの2部制で実施。

<陶芸>

基本、月曜日（1回）、火曜日（2回）・金曜日（1回）の4回に講師の方に来ていただき実施。
マンツーマンにて1作品ずつ丁寧に指導していただく。

できた作品は持ち帰る。

<運動療育>

火曜日、木曜日、金曜日で月2回 小学生・中学1年はLinkにわしとと一緒にリモートにて実施。

<野外活動>

4月 お花見・いちご狩り / 5月 若草山ハイキング / 7月 千早川マス釣り
8月 防災センター / 9月 ファインプラザ / 10月 若草山ハイキング
11月 みかん狩り ファインプラザ / 1月 初詣（大鳥大社） / 2月 ファインプラザ
3月 関西サイクルスポーツセンター

<お仕事体験>

夏休み期間中に高校生対象で一人1時間程度、就労継続B型にて作業を行う。

<クリスマス会>

部屋の飾りつけを児童と職員が一緒に行い、その後昼食クッキング（焼きそば）（提供：トナカイブリン）食後に絵本・紙芝居の読み聞かせ、クリスマスソングの合奏、ゲーム、プレゼントなど行った。

<避難訓練>

8月 地震避難訓練（自主訓練）
11月 火災避難訓練（就B合同立会い訓練）
3月 火災避難訓練（自主訓練）

<タブレット>

希望する児童のみ時間を決めてiPadを使用し、好きな動画を見たり、音楽を聴いたりする。

<課題の時間>

学校の宿題や事業所で準備した課題プリントや作業に取り組む。

<送迎>

各学校の下校時間に合わせて迎えに行く。今年度より帰りの送迎も実施。児童の生活リズムに配慮し送迎の時間や送迎の有無の相談を行い対応した。

[送迎実施校] ・支援学校 2校（上神谷支援 泉北高等支援）
・地域小学校 5校（御池台 美木多小 美木多中 城山台小 宮山台小）

Link にわしろ（児童発達支援・放課後等デイサービス）

《利用者数》（令和6年3月31日現在） 開所日数：291日

	定員	登録者数	年間延べ利用者数	平均利用者数	稼働率
① 児童発達支援	5名	6名	163名	0.5名	11%
②放課後等デイサービス	5名	21名	2,015名	7.0名	138%
合計①+②	10名	27名	2,178名	7.4名	75%

児童発達支援

《活動内容》

① 設定保育

児童の好きな素材や題材を取り入れ活動内容を設定し、「やってみたい」と意欲的に取り組むことを目標に支援した。

・制作

季節や年中行事に合わせて内容を設定。

じっくりと取り組めるように環境設定を整え、必要に応じてマンツーマン対応ができるように職員を配置し行う。個々の発達段階にあわせ工程や材料、道具を準備した。

同じ内容や工程を取り入れ、くり返し行い経験を重ねることにより、見通しを持って取り組むこと、スキルアップを目指した。

4月	・こどもの日	こいのぼり（シールで鱗を）
5月	・母の日	メッセージカード（花紙でお花づくり）
6月	・父の日	メッセージカード（タンポでステンシル）
7月	・七夕	笹飾り（スズランテープで流れ星） 短冊（親子で短冊に願い事を書く）
8月	・壁面 ○実施なし	アイスクリーム（ビー玉転がし絵）
9月	・敬老の日 ・おばけカボチャ	絵はがき（タンポでステンシル）
10月	・壁面 ・ハロウィン	かぼちゃ・こうもり（絵の具で色塗り） 菓子バック（牛乳パックに飾り付け）
11月		
12月	・壁面 ・クリスマス	クリスマスブーツ（絵具で色塗り） プレゼントボックス（牛乳パックに飾り付け）
1月	・壁面	鬼のお面（絵具で色塗り）
2月	・壁面	おひなさま（千代紙、折り紙を使って）
3月		

・感覚あそび

新聞遊び、砂遊び、水遊び、体操など。

新型コロナウイルス感染防止の為中止していたプール遊びを再開した。7月下旬から8月末まで事業所駐車場内にビニールプールを準備した。

・サーキット遊び(室内)

平均台、トンネル、トランポリンなどを使って、コースを設定。運動機能の向上を促した。

・外遊び（めじろ公園を中心に、近隣の公園を利用）

戸外遊びや散歩などを通して、自然に触れ合うことができるよう取り組んだ。

すべり台、飛び石やブランコなどの遊具で遊ぶことを通して、粗大運動が発達するよう支援した。

・自立課題

好きな感覚を取り入れた自立課題や発達段階に応じた課題を設定し取り組んだ。

プットイン、色や形マッチング、シール貼り、運筆、はさみなど。

② 季節や行事に合わせたイベント

8月	・にわしろ縁日	ゲームコーナーや屋台などにお客さんとして参加
10月	・ハロウィンパーティ	仮装後、室内でスタンプラリー。公園で魔女探し
11月	・おでかけ	「月化粧ファクトリー」工場見学 「花咲ファーム」(昼食)
12月	・クリスマス会	歌・プレゼント運びゲーム サンタさんからプレゼント ケーキを食べる
2月	・節分 豆まき	鬼の顔くす玉割ゲーム 豆まき鬼退治

③ 個々の発達段階に応じた取り組み

- ・スケジュールなど絵カードを使用した視覚支援
- ・トイレトレーニング
- ・食事指導

④ 放課後等デイサービスとの交流

8月 にわしろ縁日 10月 ハロウィンパーティ 11月 おでかけ
12月 クリスマス会 2月 節分 豆まき

《送 迎》

基本、保護者様の送り迎えにて通所する。

保護者の体調不良等、事情や状況に応じて送迎が必要な場合は相談を受け付け対応できるようにした。今年度は、利用時間延長後、帰りの送迎1件対応する。

放課後等デイサービス

《活動内容》

① 創作活動

季節の行事などに合わせた内容の製作を行った。

多くの製作に「顔」を作る工程が入るように内容設定した。「顔」を作ることを通して、「顔」の部位に意識を持てるように支援した。

4月	・こいのぼり (個人・集団)	染め紙で鱗づくり
5月	・母の日 (個人・集団)	フラワーアレンジメント 牛乳パックでポットを製作 模様は綿棒スタンプ
6月	・父の日 (個人)	ネクタイかけ トイレットペーパー芯にちぎり絵
7月	・七夕 (個人・集団)	短冊 丸シールで模様をつくる 笹飾り
8月	・季節の製作 ふきもどし (個人)	折り紙とストローを使って
9月	・敬老の日 (個人)	メッセージカード 指スタンプ
10月	・ハロウィン お菓子バック (個人) おばけカボチャ (集団)	牛乳パックに飾り付け
11月	・壁面 ・クリスマス	クリスマスブーツ (絵具で色塗り) プレゼントボックス (牛乳パックに飾り付け)
12月	・クリスマス (集団) ・年賀状 (個人)	手形でツリー スポンジでステンシル (だるま)
1月	・節分 (個人)	豆入れ 紙コップに花紙で飾り付け
2月	・ひなまつり (個人)	掛け軸風飾り 指スタンプ
3月		

② レクリエーション（室内）

新聞あそび、玉入れ、サーキット、ボールプールなどゲーム感覚のもの、ダンスなど。それぞれの取り組みに対し、参加することを目標として取り組んだ。新聞あそびでは契る事や作る事の楽しさを感じてもらえるように取り組んだ。

③ 外遊び（近隣の公園・コスモ中央公園・荒山公園・松尾寺公園・家原大池公園、原池公園など）

公園等にてかけ、遊具を使うなど体を大きく動かして遊ぶことで、運動機能や心身の発達を促すよう取り組んだ。

戸外での活動の際は、交通マナー・歩行中の危険個所の確認等を意識して移動できるよう取り組んだ。また、公園等を利用している一般の児童と空間を共有することで、遊び方やコミュニケーションの取り方、ルール等を体験し学ぶことができた。

遊ぶ前後には、手指の消毒を行い、衛生面に気を付ける意識を身につけてもらえるよう支援した。

④ クッキング

4月	たまごサンド	ゆで卵を作って、たまご切り器でカットする
7月8月	かき氷	

自分で作って食べる事の楽しさを実感し、調理器具の正しい使い方を覚え、安全に操作するための方法を知り、衛生面にも意識を持つことができるよう支援した。

お月見、バレンタインやひなまつりなど日本の伝統行事の期間は、季節を感じることができるおやつ（購入）を提供した。

⑤ ミュージックケア

月2回実施 第2水曜日 15:30~16:30 第4月曜日 15:45~16:45

外部講師（認定音楽療法士）による指導。

1グループ5名程度、30分のプログラムを実施。

⑥ 書道

月2回程度実施

曜日は固定せず、多くの利用児童が参加できるように日程等を調整した。

季節の花や食べ物の名前を書くようにし、季節感を感じるように努めた。発達段階に応じて、文字を書くことにこだわらず、「毛筆で書くこと」を楽しんでもらうように支援した。

⑦ 課題（学習）

学校の宿題やプリント（事業所で準備）などの机上課題に取り組む時間を設定。

個々に合わせて自立課題（マッチング、プットイン、パズル、塗り絵など）を設定し取り組む。実物や個別のシート（絵カード）から好きな課題を選ぶことで、意欲を持って取り組めるよう支援した。

⑧ おでかけ

土曜日・長期休暇、学校代休日に企画した。さまざまな社会体験ができる内容を取り入れた。始業式や終業式の日の昼食は、宅配弁当を利用した。

4月	リス園
5月	ららぽーと堺（外食体験）（代休）
7月	ファインプラザ／食べる大切ミュージアム／プラネタリウム
8月	月化粧ファクトリー／TRC シティプラザ図書館
10月	いずみ山愛の里（代休）
12月	アリオ鳳（外食体験）／原池公園・マクドナルド（代休）／プラネタリウム 食べる大切ミュージアム／ファインプラザ
1月	多治速比売神社 春日神社
3月	白鷺公園（卒休）／副池オアシス公園（卒休）／南港（卒業児童）／御池公園 家原大池公園／月化粧ファクトリー／神戸どうぶつ王国（みいけと合同）

⑨ その他

- ・基本的な日常生活動作を身につけるため、個々の発達段階に合わせて支援した。
- ・ソフィア堺や図書館・プラネタリウム・食べる大切ミュージアム等の公共施設を利用した。
- ・季節の行事（縁日、ハロウィンパーティー クリスマス会、豆まきなど）はイベントを企画した。児童発達支援と合同で実施。
- ・誕生日会を実施。誕生日児童の希望のおやつを用意し、友達や職員と成長を喜び合う時間を設けた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為に中止していたプール遊びを再開した。7月下旬から8月下旬の期間、土曜日のみプール遊びを実施した。
- ・絵カードを利用し、スケジュールや準備等をわかりやすく提示した。課題や自由遊び時は、絵カードが貼りだされているボードを利用し、視覚支援を行う。遊びたいおもちゃや課題を自ら選び、職員に伝えてもらうように取り組んだ。言葉で伝えることができるようになってきた児童は、絵カードの使用頻度を減らし支援を行った。

⑩ 児童発達支援との交流

季節の行事の活動の中で役割を任すことで、児童発達支援の子どもに対して、年長者としての意識を持ち行動できるよう支援した。

《送迎》

各学校の下校時間に合わせてルートを設定する。
帰り、土曜日・長期休暇は、基本保護者の送り迎えで通所する。
事情や状況などを考慮し、必要に応じて送迎を実施した。

【送迎実施校】

- ・支援学校 1校（上神谷支援）
- ・地域小学校 7校（庭代台 御池台 原山ひかり 城山台 美木多 新檜尾台 三原台）
- ・自宅への送迎が必要な方：2名（長期休暇朝のみ）

児童発達支援・放課後等デイサービス 共通

《生き物や植物の飼育・栽培》

- ・生き物や植物と身近に触れ合い、飼育・栽培することによって生き物に興味や関心、親しみを持てるよう取り組んだ。

通年：めだかの飼育

5月～ きゅうり・トマト・朝顔・風船カズラ

7・8月～ きゅうり・トマト収穫

11月～ チューリップの球根植え

《避難訓練》

- 8月 火災避難訓練（自主訓練）
- 11月 防災避難訓練・避難経路確認（自主訓練）
- 3月 火災避難訓練（立ち合い訓練）

Link ふかい（放課後等デイサービス）

《利用者数》（令和6年3月31日現在）

	定員	登録者数	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率
放課後等デイサービス	10名	23名	2,096名	7名	72.0%

《活動内容》

- ＜創作＞ 季節に応じた内容の創作活動に取り組む。
紙等を切る・貼る・折る等の工程を個々に合わせて準備する。

8月	「堺のバス路線図」（パンチニードル）アートケーション出品
----	------------------------------

<クッキング> 12月25日にハンバーガー作り（食材購入含め）。児童自らナゲットとパンズをプレートで焼き、野菜（トマト・レタス）をカットし、トッピングを行う。

<土曜日・長期休暇等の活動>

博物館や社会見学を通して知識を広げ、公園などで自然に触れ様々な経験を増やす。

4月4日	9名	狭山池公園	12月25日	11名	クリスマス会
4月5日	8名	アリオ鳳	1月5日	8名	大鳥大社
4月6日	9名	狭山池博物館	1月6日	9名	多治速比売神社
7月26日	8名	Link みいけ 就B	3月28日	10名	岸和田（だんじり会館）
7月28日	10名	さくら食堂	3月30日	8名	岸和田（岸和田城・他）
8月3日	11名	Link みいけ 就B	土曜日		荒山公園
8月8日	7名	万代 堺深井店			白鷺公園
8月10日	11名	原池公園 BBQ			コスモ中央公園
8月21日	12名	ラウンドワン			水賀池公園
11月4日	6名	和泉リサイクル公園			原池公園

<作業訓練>

- ・作業能力に関する24項目（社会面と技術面）の評価と個別の目標設定。
- ・毎回の訓練記録と定期的にモニタリングを行う。個別支援計画にも反映。
- ・「巧緻性」「正確性」「効率性」「生産性」等を総合的評価・アセスメントを作成。
- ・「集中力」「忍耐力」「判断力」「理解力」等を高めるソーシャルスキル訓練。

【訓練内容】

- ・「封筒作り」「梱包（DVD ケース）」「仕分け」「ネジの組み立て」「検品（カラーサンド）」
- ・パソコン訓練（HTML プログラミング・タイピング入力・ビジネス文書や表作成）
- ・工具作業（ドライバー・レンチ等）計量作業・タオル折り・施設内清掃・面接と接客訓練

<避難訓練>

5月：地震火災避難訓練（自主訓練） 11月：火災避難訓練 3月：経路避難訓練（自主訓練）

<送迎>

- ・支援学校・地域の学校への迎え、自宅への送りを実施。
- ・土曜日及び長期休暇期間は自宅への完全送迎。
- ・自宅への送迎 23名

【送迎実施校】

- ・支援学校 2校（上神谷支援 泉北高等支援）
- ・地域小学校 1校（原山ひかり）
- ・地域中学校 2校（三原台・深井）

3 事業所共通

<保健>

- ・健康診断 年2回 春・秋（希望者のみ）実施
- ・健康相談 地域産業保健センターの健康相談を利用
- ・メンタルヘルス 年1回 法人全体でウェブサイトによる診断を実施

<研修>

実施日	テーマ及び講師	備考
4月25日	「精神科訪問看護について」 講師：訪問看護ステーション「デューン」 芝辻恭子氏	
8月19日	「放課後等デイサービスにおける虐待についての研修」	Link
9月9日	「放課後等デイサービスにおけるリスクマネジメント」	Link

実施日	テーマ及び講師	備考
9月29日	育成事業 事例相談（1回目） 担当：高橋 マホコ氏（社会福祉法人コスモス）	
10月3日	「第1回 支援者向け連続勉強会」 主催：堺市発達障害者支援センターアブリコット堺 中條淳博氏	
11月3日	「強度行動障害について」 稲垣亮祐氏（さわらび診療所）	法人研修
11月7日	「第2回 支援者向け連続勉強会」 主催：堺市発達障害者支援センターアブリコット堺 中條淳博氏	
11月18日	「事例から虐待を考える」	Link
12月9日	「さかい福祉と介護の実践発表会」 主催：堺市健康福祉局障害福祉部障害福祉課	
1月23日	さかい障がい児放課後連絡会研修 「業務継続計画（BCP）を語る」 コミュニティ部会行政部門：かみひこうき 岩本氏	
2月6日	育成事業 事例相談（2回目） 担当：高橋 マホコ氏（社会福祉法人コスモス）	
2月8日	育成事業研修 「事業所交流会 テーマ保護者との連携」	
2月17日	「アンガーマネジメントとメンタルヘルス」	Link
3月4日	児童発達支援事業所交流会「発達障害の理解と対応」 療育の窓 おおぞら	
3月5日	「報酬改定から読み解く、放デイに求められるあり方」 講師：NPO 法人ほわほわの会 宮崎充弘氏	
	あい・さかいサポーター養成研修 基礎講座 第1回7月20日 第2回9月13日 第3回11月14日 第4回1月24日 第5回3月4日	
随時	スキルアップのため、研修案内等の各研修に参加 (発達障害について) (安全講習) (虐待防止) など	

今年度のまとめ

今年度は初めて「みいけ」、「にわしろ」、「ふかい」の全ての事業所で人事異動を行った。「みいけ」と「ふかい」間での職員1名異動。「にわしろ」は成人部からは初めての男性職員の異動を行う。3事業所とも新体制でのスタートとなった。また「みいけ」では自宅送迎サービスを開始。それにより、リピーターや新規利用も増え稼働率増加の要因となり前年度より好スタート切ることができた。

情勢的に新型コロナウイルス感染拡大予防の為の様々な制限やルールが解除または緩和されたことにより、コロナ禍前の活動状況（クッキングや外食、味覚狩りなど）に大幅に戻りつつある。学校でもマスクの着用が個人の判断になり、デイの利用児童においても保護者の要望に沿うことにした。但し毎回の検温と消毒、職員のマスク着用等の感染予防対策は継続している。

令和6年度の法改正により、児童発達支援・放課後等デイサービスでの「個別支援計画書」の様式が一新された。5領域（「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」）の視点を全て含めた総合的な支援を提供することが基本となり、支援についてはインクルージョン（障害児の地域社会への参加・包括）の観点を踏まえた内容として記載することが求められる。より障害特性に応じた専門性の高い有効な発達支援が必要となる。今後も個別のニーズの対応と適切なアセスメントを踏まえた積極的な取り組み、事業所の質の向上、職員のスキルアップに努めていきたい。このように障害児通所支援の在り方や保護者ニーズが変化していく中で、事業を継続していくために、3事業所の特色を明確にし、事業所の在り方（方針・活動内容等）を常に更新、再構築していく。